

# 人権の視点からみた造形活動

～「臨床美術」ワークショップをとおして～ こうざき りか 神崎 里香 さん



（特定非営利活動法人 若者と家族のライフプランを考える会(LPW)）

人権保育専門講座3では、特定非営利活動法人 若者と家族のライフプランを考える会(LPW)の神崎里香さんに、「人権の視点からみた造形活動」と題して、津・名張・四日市の3会場においてワークショップ形式ですすめていただき、合計100名の方にご参加いただきました。

私が臨床美術の講座を受けもっている特定非営利活動法人 若者と家族のライフプランを考える会(LPW)は、社会生活に不安をもつひきこもり経験者、精神障がいや発達障がいをもつ若者の就労支援をおこなっています。障がいには「目に見える障がい(身体障がい)」と「外見からは見えない(見えにくい)障がい」がありますが、私たちLPWが支援しているのは後者の方です。

皆さんの中で、どちらかと言うと絵を描くのが嫌いだという方は手を挙げてください。逆に絵を描くのが好きな方はいますか？

日本の美術教育を受けた人の7割が「絵を描くことが嫌い(苦手)」と答えると言われているのですが、そういう人に尋ねてみると「絵を描いてもほめてもらったことがない」とおっしゃる方が大半です。他の教科と同様に、上手・下手を数字で評価され、低い評価を受けた人は苦手意識をもってしまい、絵を描くこと自体が嫌いになってしまいます。本来、絵は数字で評価すべきものではないし、そもそも絵に上手・下手はないと私は思っています。ですから、評価をするための絵ではなく、絵を描いたら元気になり、前向きに生きていこうと思えるような「臨床美術」という手法を提供しています。

「臨床美術」は、もともと高齢者の認知症患者の症状改善のためにつくられた芸術療法で、ベティ・エドワーズ(\*)という人の理論をもとに五感(視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚)を入れ、確立されました。絵を描いたり、ものを作ったり、楽しく創作活動をすることで、脳を活性化させる働きがあります。認知症以外にも仕事上のストレスの解消や子どもの感性を豊かにする教育に有効だと言われています。

ベティ・エドワーズさんは「ほとんどの人は左脳で絵を描いている」と言っています。

**左脳…読み書きや計算など、理論的に物事を考えるときに使う脳。**

言語脳とも言われます。(→5・6歳から緩やかに発達)

**右脳…見たまま感じたままを取り入れるのに使う脳。感覚脳とも**

言われます。(→5カ月～5・6歳の間に発達)



(\*)ベティ・エドワーズ(Betty Edwards) … カリフォルニア州ラホヤ在住で、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校の美術学部教授を引退した後、大学や美術学校、ビジネス関連企業の招きで定期的に講演活動をおこなっている。著作に『脳の右側で描け』『内なる創造性を引きだせ』等がある。

### <参加者ワークショップ>

「1枚の紙を6等分し、6つの枠の中に ①太陽→②月→③星→④チューリップ→⑤家→⑥車 の順に、絵をそれぞれ3秒以内で描いてください」という指示がなされました。皆さんが描かれたものには、よく似ている絵が多くみられました(→左下の写真)。

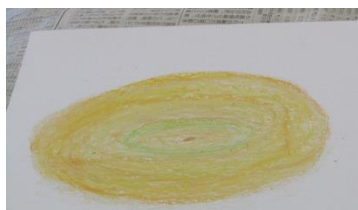


「～の絵を描いてください」と言うと、どういうわけか、だれが描いてもこうなりがちです。

このような絵は、“絵”というよりも“記号”であって、言い換えれば“状況を説明するための絵”なのです。このような絵は“左脳モード”で描いた絵だと言えます。

## それに対して、「臨床美術」では…

- ・五感をフル活用し、オイルパステルを何重にも塗り重ねて描きます。そういう創作活動をする事で、心が活性化されます。
- ・いつの間にか夢中になって、子どもたちがのびのびと自己表現できる仕組みをもっています。
- ・絵を描くことが嫌いと思っている子どもの苦手意識を取り払い、いつの間にか自然に自己表現ができる工夫を随所に凝らしています。
- ・完成した作品について、それぞれの作品の素晴らしいところを具体的に作者に伝えます。その繰り返しが自尊感情や意欲の向上につながります。



### <参加者アンケートより>

- 絵に対する苦手意識が軽減され、大変楽しく、興味をもって参加させていただきました。
- 「臨床美術」という言葉や内容が初めてのことで、とても興味深く、楽しく参加させていただきました。発達が気になる子どもへのケアなどにも取り入れていると聞き、機会があれば部分的にでも取り入れていけたらと思います。
- 日頃の保育では、否定することはしませんが、「ここはどう？」と指摘することがあります。過程をみよう、ほめようと思ってはいますが、なかなかできていないです。最初から「絵が描けない」と言う子ども、見本どおりにまねして描く子どもがいるので、言葉がけを丁寧にしていきたいと思いました。
- 「臨床美術」というものを初めて知りました。五感を使い、決まりはなく正解もないとのことで、安心して取り組みました。とても楽しかったです。自分の作品がいとおいしいです。子どもたちに対しても、たくさんほめながら、保育をすすめたいです。
- 絵を描くことへの考え方を変わられてよかったです。感じたまま描くことで、上手下手を気にすることなく描けました。
- 先生のお話もワークショップも興味深く楽しかったです。日頃、左脳ばかりを使って過ごしているのだと感じ、今日は子どもに戻った感覚で思いのままに表現する時間があり、とても楽しくりんごの絵を描くことができました。子どもたちにも今日のような製作ができればいいなと感じました。